

文京区DX推進プロジェクトの取組状況について

1 概要

デジタル社会の実現のため、住民に身近な行政を担う基礎自治体として、住民サービス及び行政事務のデジタル化等の自治体DXを推進する事業を「文京区DX推進プロジェクト」として集約し、全庁横断的にDXの取組を実施する。

2 令和7年度の取組状況

令和7年度は、国が示す自治体DX推進計画の改定を踏まえ、「行政手続きのオンライン化」を「フロントヤード改革」に見直すとともに、DX人材の育成に外部専門人材の活用を加え、別紙1「令和7年度の取組状況」のとおり、自治体DXの取組を進めている。

3 令和8年度の実施予定事業

令和8年度は、新たなフロントヤード改革の取組として「窓口DX」を追加するとともに、継続的に実施している事業を体系的に整理し、別紙2「令和8年度の実施予定事業」のとおり、自治体DXを推進する。

【別紙1】令和7年度の取組状況

文京区DX推進プロジェクト

総計 395,494 千円

1 フロントヤード改革

215,703 千円

(当初予算額 単位：千円)

① 書かない窓口の推進

税証明窓口（総務部税務課）及び住民登録窓口（区民部戸籍住民課）に、マイナンバーカードなどの本人確認書類から基本4情報を読み取り、申請書に自動転記する機器を設置し、書かない窓口を推進しました。

1,054 千円

② WEB口座振替受付サービスの導入

特別区税や国民健康保険料などの6費目の納付にかかる口座振替申請手続がインターネット上で完結させるサービスを導入し、行政手続きのオンライン化を推進しました。

40,546 千円

③ 総合的な自転車対策のDX推進事業

放置自転車対策の推進及び自転車駐車場の適切な運営のため、新たなシステムを導入し、区民の利便性向上を図りました。

159,271 千円

④ 手話言語による意思疎通支援事業

手話言語の使用を促進する環境の整備に向けて、手話を言語とする方が、通訳者が同行できない場合でも手話を利用できるよう、スマートフォンやタブレットを活用した遠隔手話通訳システムを導入しました。

4,290 千円

⑤ 文京区健康アプリを用いた健康寿命延伸事業

「文京区健康アプリふーみー」を導入し、すべての区民が身体活動量の向上及び運動習慣の定着を図り、生活習慣病の予防及び健康寿命の延伸を目指す取組を実施しました。

10,542 千円

2 業務改革（BPR）の取組

144,665 千円

① ICT化の推進による図書館利用者の利便性向上

図書館利用のセルフ化など図書館のICT化を推進すること等により、利用者の利便性向上に取り組み、『学びの拠点』としての機能向上を図りました。

132,849 千円

② 文章生成AI利用の拡充

文章生成AIから、より庁内業務に即した回答を得るために、あらかじめ登録した庁内データを基に回答を生成する機能を活用し、利用用途を拡充しました。

2,299 千円

③ 戸籍電子書籍AI検索サービスの導入

AIを活用したオンライン上のWEBコンテンツ「電子書籍検索サービス」を導入し、戸籍業務における審査・判断のための調査に活用しました。

1,426 千円

④ デジタルツールの活用による業務効率化の推進

ノーコード・ローコードツールやSMSメッセージを利用した連絡機能等のデジタルツールを導入し、さらなる業務効率化と区民サービスの向上を図りました。

8,091 千円

3 DX推進に必要な環境・仕組みづくり

23,723 千円

① OpenRoaming（オープンローミング）に対応した公衆Wi-Fi基盤の構築

東京都がTOKYO Data Highway戦略として取り組む、国際的なWi-Fi接続基盤であるOpenRoaming（※）を用いた、接続環境の構築を進め、文京シビックセンター外13施設において、セキュアでシームレスな通信環境の整備を図りました。

21,183 千円

② 窓口タブレット端末の配置

多言語通訳や手話通訳のクラウドサービス、WEBページ検索、電子申請支援、デジタルサイネージなど、住民窓口における多用途なデジタル機器として、タブレット端末を30台配置しました。

2,540 千円

4

DX人材の育成・活用

11,403 千円

①	デジタルスキル習得に向けたリスキリング推進事業	自治体DXの推進をマネジメントしていく管理職を中心 に、E-Learningによるリスキリング環境を整備し、デジタルスキルの習得を推進しました。	1,056 千円
②	DX推進センター制度による人材育成	デジタルツールの活用や業務効率化に意欲のある職員 43人を「DX推進センター」に任命し、全庁的にDXを推進するとともに、自治体DXの推進リーダーとして育成しました。	7,848 千円
③	デジタルリテラシー向上事業	デジタル機器等を利用する職員を対象に、デジタルツールの活用方法とマインドセットを目的とした研修を3回開催するとともに、ITパスポート相当のデジタルリテラシーの習得を目指し、希望職員50人を対象に、学習及び資格取得を支援しました。	2,019 千円
④	DX推進アドバイザーの設置	効果的かつ効率的なDXの推進に当たり、専門的な知識・経験に基づく支援や助言を得るため、文京区DX推進アドバイザーを1人設置しました。	480 千円

(※)OpenRoamingとは、公衆Wi-Fiサービス関連事業者の業界団体であるWireless Broadband Alliance (WBA) による国際的なWi-Fi相互接続基盤のことです。高い安全性と利便性を特長とし、一度の設定で国内・国外のOpenRoaming対応のWi-Fiスポットに自動で接続することが可能となります。

【別紙2】令和8年度の実施予定事業

文京区DX推進プロジェクト

総計 269,424 千円

1 フロントヤード改革 108,946 千円

① らく～な窓口プロジェクト

転入関連手続における手続フローの改善と窓口DXシステムの導入・活用を進め、窓口対応の効率化を図り、より簡単かつ正確な窓口対応を推進します。

48,710 千円

② 図書館におけるICT化の推進
～いつでもどこでも図書館～

リアルなブラウジング体験が可能な3D書架（仮想空間）の構築、シビックセンターへの受取ボックス設置並びに小学生及び中高生世代を対象に図書館の電子書籍サービスを提供することにより、電子書籍の利用環境を整えるなど、時間や場所にとらわれない図書館の新たな利用を推進します。

35,313 千円

③ 行政手続オンライン化の推進

電子申請手続フォームやオンライン決済が簡単に作成できる仕組みを運用し、行政手続のオンライン化を推進します。

15,774 千円

④ 申請・届出等手続ガイドサイトの運営

スマートフォンやパソコンから、オンライン上で質問に答えるだけで、ライフイベントに応じて必要な手続や持ち物が判定できる手続ガイドサイトを運営します。

1,822 千円

⑤ ごみ分別案内サービスの拡充

区民からの問い合わせに24時間365日自動応答するAIチャットボットを、生成AIを活用した新たなサービスに機能を更新し区民の利便性向上を図ります。

1,811 千円

⑥ AIチャットボットの導入

区民等からの問い合わせに対し、あらかじめ登録したFAQベースの回答情報を提示する「AIチャットボット」を導入し、24時間365日、いつでも問い合わせができる環境を整備します。

1,320 千円

⑦ その他フロントヤード改革の取組

多言語通訳や手話通訳サービス等、多用途に利用できるタブレット端末を活用するとともに、マイナンバーカードから基本4情報を転記する書かない窓口の取組など、フロントヤード改革を推進します。

4,196 千円

2 業務改革（BPR）の取組 92,211 千円

① こども家庭支援体制におけるDXの推進

児童虐待対応を中心とする業務において、ICTを活用したサービスの導入を図ります。

31,860 千円

② 文章生成AIの利用

文章生成AIから、より庁内業務に即した回答を得るために、あらかじめ登録した庁内データを基に回答を生成する機能を活用し、業務効率化を図ります。

3,696 千円

③ オンラインストレージサービスの利用

行政文書の安全かつ効率的な管理や、他自治体や外部事業者との円滑な情報共有を実現するため、オンラインストレージサービスを利用します。

13,544 千円

④ ノーコード・ローコードツールの利用

ノーコード・ローコードツールを活用し、職員自らが業務アプリを構築することで、さらなる業務効率化と区民サービスの向上を図ります。

7,146 千円

⑤ RPAの利用

パソコン上で行う定型的な業務をロボットが自動化するRPA（Robotic Process Automation）を利用し、業務の効率化を図ります。

16,350 千円

⑥ その他デジタルツールを活用した業務改革の取組

職員間のコミュニケーションツールやAIを活用した議事録作成・文字認識など、デジタルツールを活用した業務改革に取り組みます。

19,615 千円

3	DX推進に必要な環境・仕組みづくり	56,816 千円
①	人×AI 災害情報収集・分析高度化プロジェクト～beyond BOSAI DX～	頻発化・激甚化する自然災害に備え、災害対応業務の最適化を図るために、画像解析を行うAIシステムを導入するとともに、地域活動センターに衛星通信機器を配備する。
②	OpenRoaming（オープンローミング）に対応した公衆Wi-Fi基盤の構築	東京都がTOKYO Data Highway戦略として取り組む、国際的なWi-Fi接続基盤であるOpenRoaming（※）を用いた、新しいWi-Fi基盤の構築を進め、セキュアでシームレスな通信環境の整備を図ります。
4	DX人材の育成・活用	11,451 千円
①	デジタルスキル習得に向けたリスキリング推進事業	自治体DXの推進をマネジメントしていく管理職を中心に、E-Learningによるリスキリング環境を整備し、デジタルスキルの習得を推進します。
②	DX推進センター制度による人材育成	デジタルツールの活用や業務効率化に意欲のある職員を「DX推進センター」に任命し、全庁的にDXを推進するとともに、自治体DXの推進リーダーとして育成します。
③	デジタルリテラシー向上事業	デジタル機器等を利用する職員を対象に、デジタルツールの活用方法とマインドセットを目的とした研修を実施し、意識改革を進めるとともに、ITパスポート相当のデジタルリテラシーの習得を目指し、学習及び資格取得を支援します。
④	DX推進アドバイザーの設置	専門的な知識・経験に基づく支援や助言を得るため、文京区DX推進アドバイザーを設置し、効果的かつ効率的なDXの推進を図ります。

（※）OpenRoamingとは、公衆Wi-Fiサービス関連事業者の業界団体であるWireless Broadband Alliance（WBA）による国際的なWi-Fi相互接続基盤のことです。高い安全性と利便性を特長とし、一度の設定で国内・国外のOpenRoaming対応のWi-Fiスポットに自動で接続することが可能となります。

〔事業費 総計について〕

集計対象事業の相違により、令和8年度重点施策資料に記載された額と異なっています。